

建設地	: 宮城県仙台市	竣工	: 平成31年3月	敷地面積	: 626.43㎡
地域区分	: 4地域	用途	: 専用住宅	延床面積	: 115.93㎡
設計者	: 一級建築士事務所 大角雄三設計室	構造・階数	: 木造軸組・地上1階	建築面積	: 115.93㎡

■提案の概要

- 東西に細長い大型の民家が、南に畑、北の背を山にした美しい集落にある住宅。周辺の集落はなだらかな等高線に沿って点在しており、この集落に溶け込むデザインを採用するとともに、こうした地域の伝統的な農家住宅の形式や空間構成を理解し「現代民家」として地域環境への対応や文化の継承・発展への寄与を目指している。
そのため、東西に長く地盤高を調整し、それに合わせた平面計画としている。また、一般的な縁側を現代的にアレンジした「新しい縁側」を組み込み、風除室のようなサンルームとすることで室内環境を穏やかに整え、ハイサイドライトと併用することで、冬期の日射熱の取得に努める工夫がなされている。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、引戸形式の内部建具、深い軒庇、大きな窓、高窓・天窗、無垢材や断面が大きな構造材（丸太）の使用、部材現し、瓦屋根、板張り壁、床板張り仕上げ、古色塗り（煤弁柄塗り）、和小屋組、適材による加工、格子、塗壁等、幅広く採用している。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、居間と茶の間の続き間、熱的緩衝空間（縁側）、無垢材のカタ木（厚さ15mm）の床板への利用、開閉可能な欄間、大開口とハイサイドライトによる通風への配慮、古材の再利用、地域の職人・大工の登用、薪ストーブなどが採用されている。



地域の集落に調和し地形に配慮した現代的な外観




水平に連続した高窓による通風への配慮




庭に面した大開口と現代における「新しい縁側」

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 


□続き間 

居間と茶の間が続き間。
空間の可変性により冬期の暖房空間を小さくできる。





続き間

深い軒・庇

□深い軒・庇 

軒の出 900mm


□新しい縁側  

冬期の熱的緩衝空間として幅 500 mm の「新しい縁側」が設けられている。





新しい縁側

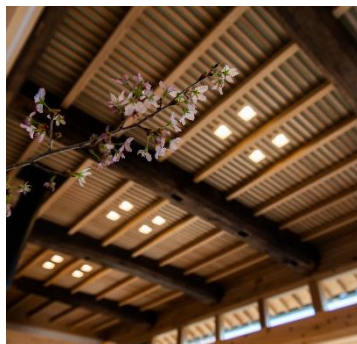
大きな開口

□大きな開口 

幅 2,730mm の窓が 4 連で設けられている。


□木製建具  

地場製作の木製建具が使われている。



古色塗り

欄間

□古色塗り 

古材の丸太に古色の防腐剤を塗布している。

□欄間 

居間から小屋裏に通じる開閉可能な欄間が設けられている。

□床板張り  

フローリングに無垢材のカタ木 (t15mm) が採用されている。



床板張り

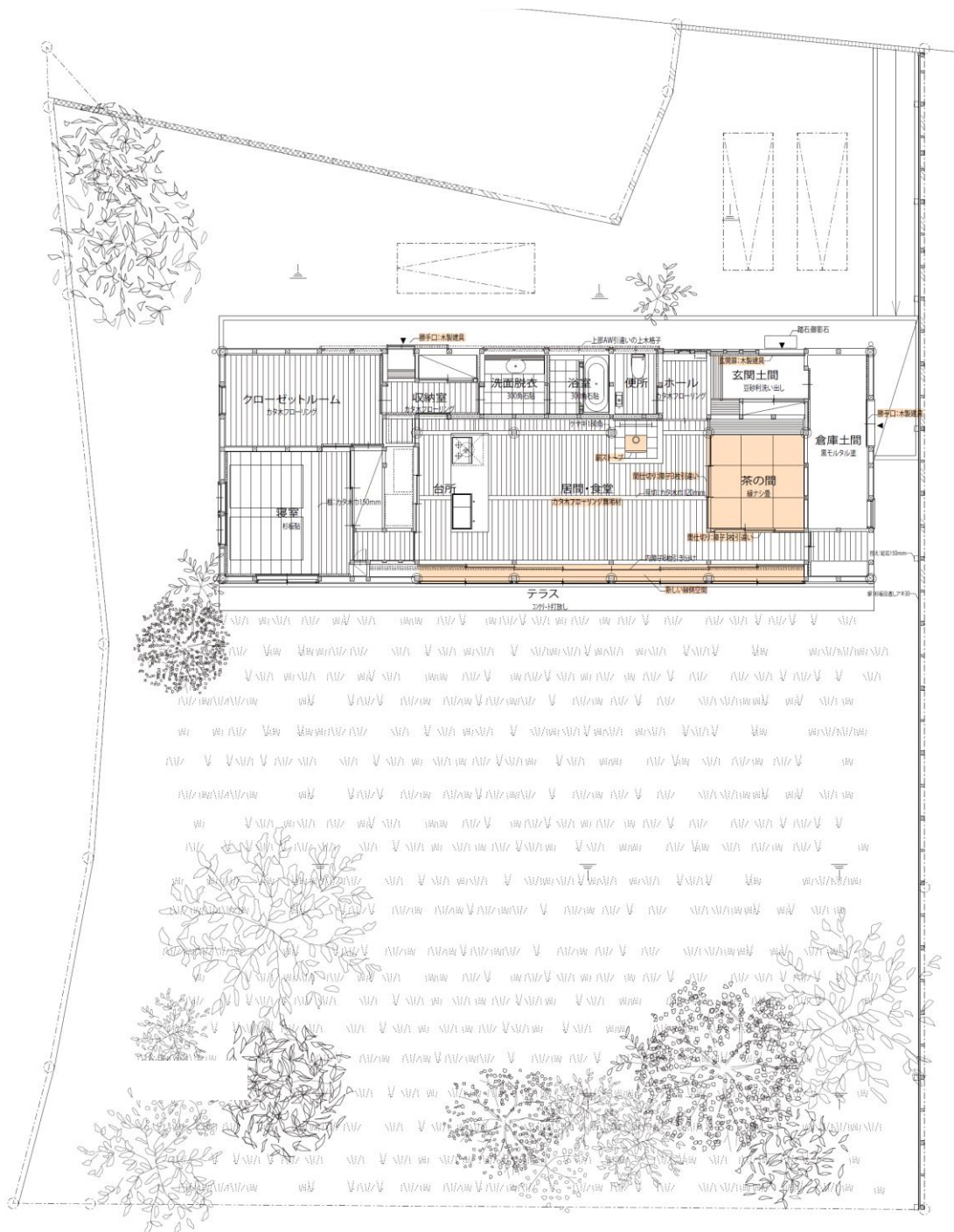
薪ストーブ

□薪ストーブ 

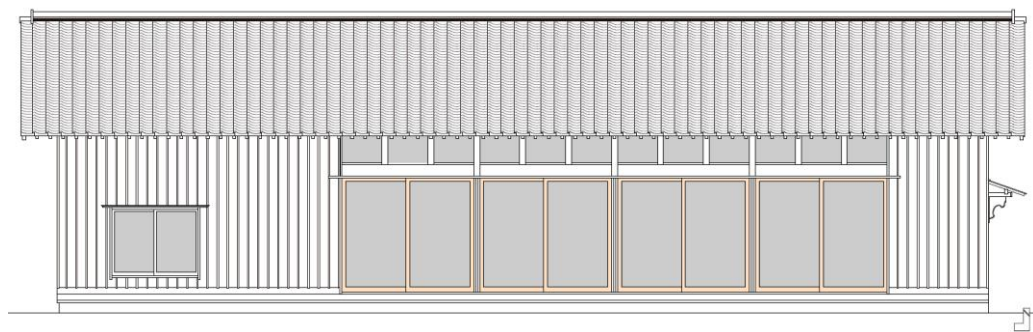
居間に薪ストーブが設置されている。

■エネルギー性能（採択時）

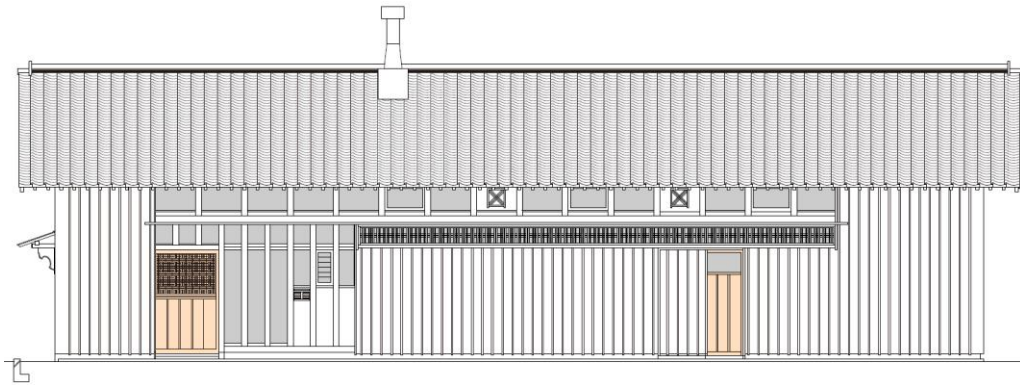
項目	基準値	設計値
評価方法	Web プログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	4 地域（宮城県仙台市）	
外皮平均熱貫流率 (U _A 値)	0.75 以下	0.86 W / (m ² ・K)
一次エネルギー消費量	108.5 以下	107.8 GJ / (戸・年)
一次エネルギー消費性能 (BEI)	1.0 以下	1.00



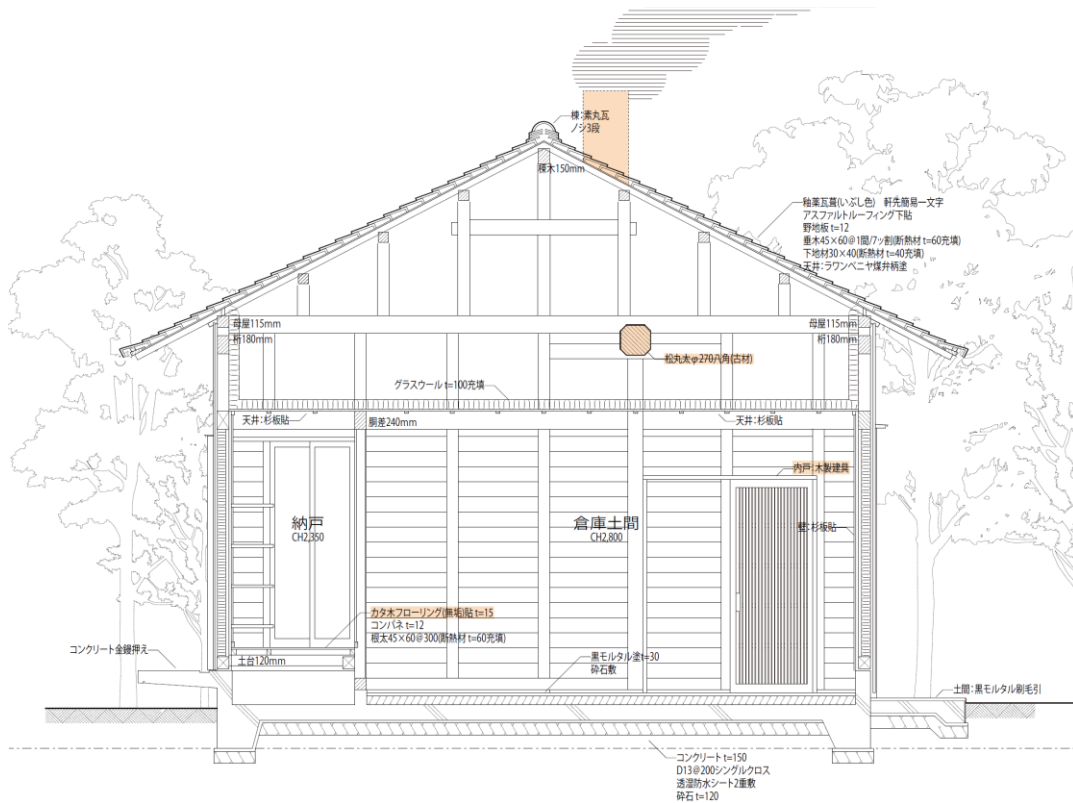
平面図



南側立面図



北側立面図



矩計図

■お施主様の声

家を建てようと考え、いろいろと勉強した際、仙台市内にある大角雄三設計室さんが手掛けた飲食店の外観・内観のデザインや質感がとても印象的でした。このような素材や質感を活かした家にしたいと思い依頼しました。敷地周辺には古い家が多く残り、こうした風景に馴染む日本の住宅としての普遍性があり、かつ現代的に洗練されたデザインを求めました。全ての障子を閉じても、欄間から空が見え光が入るので、閉じながらも常に外とつながり、外を意識できる点がとても気に入っています。

入居後は、家の内部・外部に何か不具合が起きていないかどうか見て回るようになり、いつも家の世話をするようになりました。また夫婦で話し合うことも多くなり、家づくりと暮らしが夫婦共通のプロジェクトになりました。

■設計者の声

岡山に残る古民家から住宅づくりのヒントを得て、これをベースにしながら、それぞれの地域に根ざし、伝統や歴史を学び、かつ時代性・現代性を求めるために自分なりのデザインとして表現することを意識した家づくりを行っています。寒冷地での住宅づくりは初めてでした。少しでも熱容量を向上させるためのコンクリートのテラスや、小屋裏の通風のための開閉可能な欄間を取り入れています。

「新しい縁側」は幅 50 cmほどの空間ですが、両面に紙を張った障子によって、外との環境を遮断しながら、閉めていても外とのつながりをもてるように設計しました。

土壁と木造軸組工法を基本とした家づくりをしています。地域の気候風土をふまえた上で、新しいもの、新しいデザインを考えています。